

安全データシート

作成日 1996年 4月17日

改訂日 2020年 6月 9日 1/6頁

SDS No.1021-31251

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : N-Propyl Acetate
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1021-31251
整理番号(SDS No.) : 1021-31251
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 引火性液体 : 区分2
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分4
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

H225 引火性の高い液体および蒸気
H332 吸入すると有害
H320 眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性)
H336 眠気又はめまいのおそれ(麻酔作用)
H402 水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースをとること。
P241 防爆型の機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

[応急措置]

P303+P361+P353 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚をシャワーで洗うこと。
P304+P340 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P337+P313	眼の刺激が続く場合、医師の手当てを受けること。
P370+P378	火災の場合、消火するために適した消火剤を使用すること。
[保管]	:
P403+P233+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。
[廃棄]	:
P501	内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	: 化学物質
化学名または一般名	: N-Propyl Acetate
慣用名または別名	: 1-アセトキシプロパン、酢酸1-プロピル、酢酸、n-プロピルエステル
濃度	: --
化学式	: CH ₃ COO(CH ₂) ₂ CH ₃
官報公示整理番号	: 化審法：(2)-727 安衛法：設定されていない
CAS RN	: 109-60-4

4 応急措置

吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移動し、安静保温に努め、直ちに医師の手当てを受けること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 石鹸と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
目に入った場合	: 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。
暴露した場合	: 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
急性症状および遅発性症状の 最も重要な徴候症状	: 蒸気吸入により、呼吸器刺激性、めまい、疲労、悪寒や頭痛などの症状を生じる。接触により眼や皮膚の発赤、痛み、皮膚の乾燥などが生じる。
応急措置をする者の保護	: 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤	: 粉末、泡(アルコール泡)、二酸化炭素、水(噴霧)
使ってはならない消火剤	: 棒状水
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込めおよび浄化の方法および機材	: 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除き密閉できる空容器に保管し、適切に処分すること。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
 アンプル開口時には保護眼鏡及び保護手袋を着用し、注意して切断する。
 屋内作業場における取扱場所では局所排気装置を使用する。
 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
 作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。
 使用後は、適切な方法で残液及び空容器を処分すること。
 吸い込んだり目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
 取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管

- 適切な保管条件 : 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。
 容器は直射日光を避け、冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。
- 避けるべき保管条件 : 火花、高温、スパーク、混触危険物質との接触を避ける。
- 技術的対策 : 換気により場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。火気厳禁。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、強酸、火源の近くに保管しない。
- 安全な容器包装材料 : ガラスアンプル等

8 ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
 取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- 管理濃度 作業環境評価基準 : 200 ppm
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会 : 200 ppm
- ACGIH TLV-TWA : 設定されていない
- OSHA PEL-TWA : 200 ppm
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 保護マスク
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 目の保護具 : 保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴
- 適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 無色
- 臭い : 特異臭
- 融点/凝固点 : -92℃
- 沸点または初留点 : 101.3℃
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界 : 2%(下限)~8%(上限)
- 引火点 : 13℃(タグ密閉式)
- 自然発火点 : 450℃
- 分解温度 : データなし
- pH : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 溶解度 : 1.6mL/100mL。ベンゼン、アルコール、エーテルに易溶

n-オクタノール／水分配係数

log Po/w	: 1.24
蒸気圧	: 3300Pa(20°C)
密度及び/または相対密度	: 0.9 (20°C)
相対ガス密度(空気=1)	: 3.5
粒子特性	: 該当しない

1 0 安定性及び反応性

反応性	: 適切な保管条件下では安定。
化学的安定性	: 適切な保管条件下では安定。光によって変質するおそれがある。
危険有害反応可能性	: 硝酸アンモニウム、硝酸、硫酸、無水クロム酸、クロロホルム、四塩化炭素、塩酸等と接すると発火することがある。強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険性がある。
避けるべき条件	: 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源、混触危険物質との接触
混触危険物質	: 強酸化剤、酸性化合物
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

1 1 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラットのLD50値として、> 3,200 mg/kg (SIDS (2009)), 8,700 mg/kg (SIDS (2009), ACGIH (7th, 2001)), 9,370 mg/kg (SIDS (2009))。
急性毒性(経皮)	: ウサギのLD50値として、> 17,800 mg/kg (SIDS (2009), ACGIH (7th, 2001))。
急性毒性(吸入：蒸気)	: ラットへの8,000 ppm、4時間ばく露試験の結果、4/6例の死亡の報告 (PATTY (6th, 2012)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)) 及び、ラットのLC50値 (4時間) として、4,000 ppm-8,000 ppm との報告 (SIDS (2009)) に基づき、区分4とした。なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度 (47,236 ppm) の90%より低いため、ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。新たな情報源 (PATTY (6th, 2012)、SIDS (2009))。
急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)	: データ不足
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: ウサギに本物質を24時間非閉塞適用した試験が2報あり、一方の試験では刺激性はみられなかったが、もう一方の試験では紅斑と壊死がみられたとの報告がある (SIDS (2009))。また、別のラットを用いた試験 (適用時間不明) で損傷皮膚への適用により軽度の刺激性がみられたとの報告や (SIDS (2009))、モルモットの皮膚に本物質を閉塞適用した結果、軽度の紅斑がみられたが回復性であったとの報告がある (SIDS (2009))。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ウサギを用いた試験において、回復性の角膜障害がみられ刺激の程度はグレード2 (1-10) であったことから、軽度の刺激性と報告されている (SIDS (2009))。また、ヒトでの事例においても眼に対する刺激性が報告されている (HSDB (Access on September 2014))。
呼吸器感作性/皮膚感作性	: データ不足
生殖細胞変異原性	: データ不足
発がん性	: データ不足
生殖毒性	: 本物質についてのデータはないが、SIDS (2009) では、n-プロピルアルコールに関するラットを用いた吸入経路での生殖毒性試験あるいは催奇形性試験において生殖能、催奇形性に影響がみられていないことが報告されている。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 本物質は、気道刺激性がある (SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012)、HSDB (Access on September 2014))。ヒトにおいては、高濃度で、めまい、衰弱、意識喪失の報告がある (HSDB (Access on September 2014))。実験動物では、麻酔作用があるとの記載、ラットの16.7 mg/Lの吸入ばく露で不活発、中枢神経系抑制の報告がある (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1970)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012))。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: ラットに加水分解物のn-プロピルアルコール蒸気を吸入ばく露した試験 (SIDS (2009))、ネコに本物質を吸入ばく露した試験 (IUCLID (2000)) の記述があるが、ばく露期間が5ないし9日間と短く、分類に適用外のデータである。
誤えん有害性	: データ不足

1 2 環境影響情報

- 水生環境有害性 短期(急性) : 魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=60mg/L(HSDB、2004)。
 水生環境有害性 長期(慢性) : 急速分解性があり(BODIによる分解度：81%(既存化学物質安全性点検データ)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.24(PHYSPROP Database、2005))。
 残留性・分解性 : 急速分解性がある
 生態蓄積性 : 生物蓄積性が低い
 土壤中の移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国際規制

- 海上規制情報 : IMOの規定に従う。
 UN No. : 1276
 品名 : n-PROPYL ACETATE
 国連分類 : 3
 容器等級 : II
 海洋汚染物質 : 非該当
 航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。
 UN No. : 1276
 品名 : n-Propyl Acetate
 国連分類 : 3
 容器等級 : II

国内規制

- 陸上規制 : 消防法、毒劇法の規定に従う。
 海上規制 : 船舶安全法に従う。
 国連番号 : 1276
 品名 : N-Propyl Acetate
 クラス : 3
 容器等級 : II
 海洋汚染物質 : 該当
 航空規制情報 : 航空法の規制に従う。
 UN No. : 1276
 品名 : N-Propyl Acetate
 国連分類 : 3
 容器等級 : II
 緊急時応急措置指針番号 : 129

1 5 適用法令

- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 労働安全衛生法 : 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.182
 第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) No.20
 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) No.53
 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) No.4-3
 化管法 : 非該当
 化審法 : 既存物質
 消防法 : 危険物第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類) No.2
 船舶安全法(危規則) : 引火性液体類(危機則第3条危険物告示別表第1) No.1276

航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) No.1276
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質(施行令別表第1) No.154
大気汚染防止法	: 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)【揮発性有機化合物】
水質汚濁防止法	: 非該当
土壌汚染対策法	: 非該当
廃掃法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

ezSDS、ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。